

平成 27 年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長
木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

- 1, 生活指導上の基本目標
 - ・ あいさつが出来る ・感謝の気持ちを持てる ・けじめがつけられる ・自分のことは自分で出来る
 - ・ 友達のことを思いやる事が出来る
- 2, 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
- 3, 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
- 4, 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びの工夫できる子に育てる。
- 5, いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A, 本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	教員研修の新しい取り組み
2	園庭樹木環境の整備、改修
3	遊戯室前 通路テントの改修・保育室東棟の改修
4	保護者用駐車場所の確保
5	保育室内玩具、教材の総点検と整備、改修
6	「子ども・子育て新制度」の研究と対応

B, 評価項目の設定理由

項目	内容
1	講師による一斉研修や外部研修会の報告だけの在り方では、木の実幼稚園での具体的な保育改善に直結しないことが多い。また、定型化している朝の会や外遊びの見直しも急務であり、新しい内容の研修の取り組みが必要である。
2	すべての園舎の新築、改修が本年度4月に終了するのに合わせ、着手できなかった大運動場北側及び木造棟北側の樹木、環境整備を行う必要がある。
3	園児増に伴い、東棟に1クラス設置する事となった為、室内の大幅改修が必要になった。また遊戯室前の通路テントが雨天時にほとんど機能していないので、改修、拡大が必要である。
4	長年借用していた天理教第5駐車場が閉鎖となった為、代替えの駐車場の確保が早急に必要である。
5	保育室内の様々なコーナー活動用の玩具が導入後20年以上となるものが増え、欠品や補修が必要なものが増えている。この為、全品目の総チェックと修理、補充を行いたい。
6	本年27年度が新制度開始の年であるが、大阪府下や全国の取り組みの状況について、情報収集と行政との対応が急務である。

C, 評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型保育の前年度及び一学期の実践を複数の担任が発表し、その方法論や具体的内容を共有し、話し合い、改善につなげる ・朝の会での歌や会話、リズム遊びの内容及びクラスの壁面の使い方を、学年別に子どもの育ちにふさわしいものになっているか検討し、新しい内容に切り替える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大運動場北側 お地藏様周辺の植え込みを「バタフライ・ガーデン」(蝶がやってくる庭)をコンセプトに、香りや花が美しい低木の樹木に植え替え、保育に生かせる環境に変える。 ・職員室と子どもアトリエ通路北側をロックガーデンに変え、ハーブが楽しめ、バッタや他の昆虫が集まるスペースに作り変える。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・東棟2階保育室に天井レールやカラーカーテン、オリジナルの稼働家具や観葉植物等を設置し、他の新しい保育室と同じコンセプトにする。 ・遊戯室前 通路上のテントを大型のものに作り変え、雨天時の集合場所や通路として十分な機能を持つものにする。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園南側の農地1200平米を地主と交渉し、借地契約が成立。5月の両親参観日までに整備を終了する。借地料は新たに予算化する。この駐車場が十分機能するか検証する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・要修理、不足玩具のリストアップと漸次新規購入を年度内に実施。同時にコーナー用玩具の在り方について学年別の見直しを行う。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺市町村の認定こども園化の状況や保護者のニーズを考慮しつつ、新制度が教育・保育の質の向上につながるかを、子ども・保護者・教員の視点から検証し、行政と対応したい。(木の実幼稚園では28年度は認定こども園化しない。29年度以降は未定・検討中である。)

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は27年度末 28年3月に実施する。